記者発表資料

2025年6月6日
公益財団法人 放送文化基金

Press Release

第51回放送文化基金賞　決定!!

放送文化基金賞は、過去1年間（2024年4月～2025年3月）の放送・配信された中から選ばれた、優れた番組・コンテンツや個人、グループに贈られる賞です。今回は、全国の民放、NHK、動画配信会社などから、全部で282件の応募、推薦がありました。4月から約2か月にわたる厳正な審査の結果、ドキュメンタリー、ドラマ、エンターテインメント、ラジオの4つの部門で、それぞれ最優秀賞、優秀賞、奨励賞の16作品と、演技賞や出演者賞など個人6件、放送文化、放送技術部門で8件、さらに特別賞1件の受賞が決まりました。

受賞者には、賞牌・トロフィー、賞金が贈られます。賞金は、最優秀賞―100万円、優秀賞―70万円、奨励賞―50万円、個人賞―30万円、放送文化、放送技術部門―各30万円、特別賞―50万円です。
贈呈式は、2025年7月9日（水) 午後4時30分から東京で行います。

1 ドキュメンタリー部門	5作品	最優秀賞―1 優秀賞―1 奨励賞―3
2 ドラマ部門	4作品	最優秀賞―1 優秀賞―1 奨励賞―2
3 エンターテインメント部門	4作品	最優秀賞―1 優秀賞―1 奨励賞―2
4 ラジオ部門	3作品	最優秀賞―1 優秀賞―1 奨励賞―1
1～4の中から個人	6件	演技賞―2
		脚本賞―1
		出演者賞―2
		調査報道賞―1
5 放送文化部門	4件	
6 放送技術部門	4件	
7 特別賞	1件	

お問い合わせ先　放送文化基金
（担当　川副、甲斐、鈴木、大園）
東京都渋谷区神山町9-6　日本会館2
TEL：(03)5738-7151

第51回「放送文化基金賞」受賞一覧

部　　門	賞　　（賞金）	受　賞　者	番 組 名 ・ 業 績
ドキュメンタリー	最　優　秀　賞 (100万円)	NHK	NHKスペシャル　調査報道・新世紀　File3 子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇（前編・後編）
	優　　秀　　賞 (70万円)	NHK札幌放送局、NHK旭川放送局	NHKスペシャル　海獣のいる海　あるトド撃ちの生涯
	奨　　励　　賞 (50万円)	熊本朝日放送	いのち　つないで
	(50万円)	NHK	ETV特集 「"法"の下の沈黙　～優生保護法の罪　1948-2024～」
	(50万円)	NHK大阪放送局	ＮＨＫスペシャル 封じられた"第四の被曝" ―なぜ夫は死んだのか―
ド　ラ　マ	最　優　秀　賞 (100万円)	NHK	連続テレビ小説　虎に翼
	優　　秀　　賞 (70万円)	日本テレビ放送網	ホットスポット
	奨　　励　　賞 (50万円)	NHKエンタープライズ、NHK	ドラマ10　燕は戻ってこない
	(50万円)	Netflix	Netflixシリーズ　極悪女王
エンターテインメント	最　優　秀　賞 (100万円)	テレビ朝日	題名のない音楽会～山田和樹が育む未来オーケストラの音楽会
	優　　秀　　賞 (70万円)	NHK大阪放送局	バリバラ　最終回スペシャル　前編「イメージをぶち壊せ！マイノリティーと歩んだ15年」後編「タブーに切り込め！マイノリティーが叫んだ15年」
	奨　　励　　賞 (50万円)	中京テレビ放送	ヒューマングルメンタリー オモウマい店 能登のずっと明るい寿司親子 2024-2025
	(50万円)	AbemaTV	国境デスロード　トランプの壁突破デスロード 前編・後編
ラ　ジ　オ	最　優　秀　賞 (100万円)	CBCラジオ	CBCラジオ特集「20年目」
	優　　秀　　賞 (70万円)	NHK	放送100年特集　ラジオと総動員帝国 ～旧満州の放送音源が問いかける"教訓"～
	奨　　励　　賞 (50万円)	文化放送	文化放送開局記念　昭和100年スペシャル 「ドンとモーグリとライオンと ～やなせたかし 名作前夜」
	演　　技　　賞 (30万円)	伊藤沙莉	連続テレビ小説　虎に翼
	演　　技　　賞 (30万円)	角田晃広	ホットスポット
	脚　　本　　賞 (30万円)	バカリズム	ホットスポット
	出　演　者　賞 (30万円)	石丸幹二	題名のない音楽会～山田和樹が育む未来オーケストラの音楽会
	出　演　者　賞 (30万円)	西山美香、井戸謙一	CBCラジオ特集「20年目」
	調 査 報 道 賞 (30万円)	ひいらぎネット、Tansa	NHKスペシャル　調査報道・新世紀　File3 子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇（前編・後編）
放送文化	(30万円)	手塚孝典（信越放送）	25年にわたる満蒙開拓の証言記録とドキュメンタリー番組の制作
	(30万円)	吉崎　健（NHK福岡放送局）	長年にわたる「水俣病」など地域に根差したドキュメンタリー番組の制作
	(30万円)	長崎放送	永年にわたる被爆者証言の記録と放送、及び核軍縮に向けての報道
	(30万円)	NHK「性暴力」プロジェクト	継続して性暴力被害者の実態を伝え社会の理解を促進
放送技術	(30万円)	日本テレビコンテンツ開発チーム（日本テレビ放送網） 代表　戸部雄輝、岸 楓馬	3Dスキャンワークフローの簡易化とその活用
	(30万円)	Live Multi Studio開発チーム（TBSテレビ、WOWOW）　代表　藤本 剛　（TBSテレビ）	映像伝送ソフトウェア「Live Multi Studio」の開発
	(30万円)	VMO開発チーム（テレビ北海道） 代表　高橋康二	VMO（バーチャルマスターオペレーター）の開発
	(30万円)	H3ロケット打上げ撮影システム開発チーム（NHK、JAXA、M-Tec JAPAN）　代表　三橋政次（NHK）	H3ロケット打上げ用超高精細撮影システムの開発
特　別　賞	(50万円)	天城靱彦とTokyo Docs	国際イベントを通してドキュメンタリーの海外展開を牽引

＊各部門の掲載順は受付順による。

ドキュメンタリー部門

最優秀賞

NHKスペシャル　調査報道・新世紀　File3
子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇（前編・後編）

NHK

概要

連日のように報道される大人たちによる子どもへの性加害や盗撮事件は氷山の一角にすぎないのではないか。取材班はネットパトロールを行う母親らの市民団体と手を組み、SNS上に広がる「盗撮コミュニティー」に潜入取材。盗撮を止められないという愛好家や教え子を盗撮し逮捕された大手学習塾の元講師らへの取材からは、仲間同士の結びつきがより悪質な犯罪へとエスカレートさせている実態が浮かび上がってきた。後編では性交や自慰を強いられる日本の子どもたちの動画をアプリで売買している「児童ポルノビジネス」の実態を追跡。2年前からこの問題を取材してきた外部メディアとの共同取材によって深い闇をあぶり出す。2週にわたる調査報道が突きつけるのは子どもたちが日常的な生活空間で犠牲になっている重い現実だ。番組は有効な手を打てずにいる巨大プラットフォーム企業の責任を問うとともに、政治・行政による踏み込んだ対策の必要性を訴える。

選考理由

子どもの盗撮動画や児童ポルノが、ネット上で商品となって売り買いされている現実がある。本作は、その温床となっているアプリのプラットフォームの解明と、「盗撮コミュニティー」を告発する過程を追った、優れたドキュメンタリーである。
盗撮された画像や、自撮りの性的画像を送ってしまった場合など、画像はネットに拡散され、その被害を止めることは不可能だ。被害者となった子どもにとっては、一生の問題であり、深刻な人権侵害である。
盗撮画像の投稿、そして商品化という流れを、取材班は「ひいらぎネット」「Tansa」というふたつの民間調査機関と連携して、地道で緻密な調査と告発を行った。民間との連携も、新しい調査報道の手法であると評価された。

優秀賞

NHKスペシャル　海獣のいる海　あるトド撃ちの生涯

NHK札幌放送局、NHK旭川放送局

概要

北海道・礼文島の〝伝説のトド撃ち〟俵静夫・88歳。厳寒の海に小舟で向かい、体重1トンのトドを半世紀以上、しとめ続けてきた。一発で的確に獲物をしとめる技に並ぶ者は、今後現れないとさえ言われている。昔、島民にとって、貴重なタンパク源だったトド。しかし今、猟の目的は深刻な漁業被害を減らすための駆除となった。漁師でもある俵は自戒をこめ、こう語る。「人間が魚を取りすぎたからだ」と。人間が生きるために、トドの命を奪う･･･。その業と向き合い続けてきた俵も、自らの命の終わりを迎えようとしていた。命を奪い、命と向き合う日々の記録。

選考理由

ドローンによる、北の島と海の映像が美しい。魚を奪うトドを殺さざるを得ない漁師たちの厳しい暮らしぶりが、丹念に描かれる。トド撃ち名人と言われた老人の生涯を追った本作は、短編映画と言ってもよい物語性に満ちていて、見る人の心を打つ。

奨励賞

いのち　つないで

熊本朝日放送

概要

親が育てられない子どもを匿名でも預かる「こうのとりのゆりかご」開設から14年、熊本市の慈恵病院は国内初の「内密出産」を2021年の年の瀬に実施したと公表した。危険な孤立出産や乳児の遺棄を防ぐことを目的に、予期しない妊娠を周囲に明かせない女性が病院以外には身元を明かさず出産できる仕組みだが、国内では法制化されていない。事例は積み上がり、病院は費用の全額を負担しながら綱渡りの運用を続けている。内密出産を頼る女性の背景には何があるのか。1人の当事者が語ったこととは。内密出産の2年4カ月を追った。

選考理由

赤ちゃんポストで有名な熊本慈恵病院は、妊娠や出産を周囲に知られたくないと強く願う女性に、匿名性を保証する内密出産も行っている。
批判もあるなかで、内密出産の目的は、何よりも母子共に危険な孤立出産を避けることにある、と語る院長の言葉は重い。女性だけに出産のリスクを負わせる社会であってはならないと強く思わされる。

奨励賞

ETV特集
「“法”の下の沈黙 ～優生保護法の罪　1948-2024～」

NHK

概要

終戦後から半世紀にわたり、障害者への強制不妊手術を認めていた旧優生保護法。2024年7月に最高裁判所で、成立時から一貫して憲法違反だったという判決が下された。その被害者は約25000人。2018年、被害者の1人が国の責任を問う訴訟を提起、原告は6年で39人に広がった。しかし国を訴えたのは、被害者のうちごく一部。多くの人が、今も傷みを胸に秘めたままだ。その沈黙の理由とは？そして、社会はなぜ半世紀もの間、強制不妊手術を見過ごしてきたのか。被害者の側と社会の側の両面から、優生保護法がもたらした“沈黙”の理由を探っていく。

選考理由

障害者や犯罪者を差別し、労働力の確保のために国家が生殖を管理しようとする旧優生保護法について、1948年の成り立ちから現在に至るまでを、歴史的に検証している。各自治体に付されたノルマによって、本人の意志に関係なく断種・手術された人々の悲しみとやり場のない怒りを癒すことは誰にもできない。人生に深く関わる生殖の問題だからこそ、被害者は口を噤まざるを得ない。人権侵害という観点から、国家の責任を追及する傑作である。

奨励賞

NHKスペシャル
封じられた“第四の被曝” ―なぜ夫は死んだのか―

NHK大阪放送局

概要

私たちの社会が、その存在すら忘却してきた被ばく事件がある。1958年、アメリカの水爆実験により、海上保安庁の船「拓洋」と「さつま」の乗員113名が放射線を浴びていたのだ。1年後、乗員の永野博吉さんは、急性骨髄性白血病でこの世を去った。国は永野さんの被ばく線量は「微量」で、白血病と「直接関連づけることは困難」と結論づけ、妻の澄子さんは事件の実態を知らされずに、その後の人生を過ごしてきた。なぜ夫は死んだのかー。1945年、広島・長崎への原爆投下。1954年のビキニ事件。それらに次ぐ“第四の被曝”。その実態に迫る。

選考理由

広島、長崎、福竜丸に次ぐ第四の被曝とされる、海上保安庁の船「拓洋」と「さつま」。
しかし、この事件は国民には知らされなかった。背景には、日米関係の悪化を双方が怖れたという事実がある。個人は国家に優先されない、という強烈なメッセージが籠められていることと、スクープ力が高く評価された。

ドラマ部門

最優秀賞

連続テレビ小説 虎に翼

NHK

概要

主人公・猪爪寅子（ともこ・通称トラコ）は、女学校卒業後、結婚を勧める母を振り切り、日本で唯一の女性に法律を教える学校へ進学する。周囲から「魔女」と陰口をたたかれながらも法を学び続け、昭和13年には日本初の女性弁護士の一人となる。しかし弁護士としての職を得ても、寅子は女性であることによる困難に直面し続ける。日本は戦争に突き進んでいき、兄と夫を失うという悲劇にも見舞われる。焼け野原となった日本で、寅子は公布された日本国憲法に希望を見出し、裁判官になることを決意。戦争で親を亡くした子供たちや苦境に立つ女性たちのために、家庭裁判所の設立に奔走する。そして裁判官となった寅子は、志を同じくする仲間たちとともに、人々の身近な問題に向き合い情熱を注いでいく。日本初の女性弁護士として、そして女性裁判官の草分けとして、困難な時代を力強く生き抜きながら、寅子はその生涯をかけて法とは何かを問い続けた。

選考理由

日本初の女性弁護士、判事、裁判所長を務めた三淵嘉子をモデルとして史実に基づきながら、多様で精彩に富む人物設定や、ユーモラスな演出により、笑って泣ける高品位のドラマとなった。当時の社会の価値観に対して「はて？」と疑問符を突きつける手法が痛快で秀逸であり、現代社会にも「はて？」と問い直す面が多々あることを示唆してくれる。何より主人公・寅子が魅力的で頼もしく演じられ、多くの人が勇気づけられたのではないだろうか。

優秀賞

ホットスポット

日本テレビ放送網

概要

富士山麓のとある町には、地球外生命体が潜んでいた！
ビジネスホテルで働くシングルマザー遠藤清美41歳。
ある日、彼女はひょんなことから宇宙人と遭遇し…！？
小さな田舎町で不思議な出来事が起こったり起こらなかったりする、バカリズム脚本・地元系エイリアン・ヒューマン・コメディー！

選考理由

ここまで大笑いしながら観られるドラマも少ないだろう。SF的なありえない設定と巧みな展開、そこから醸し出される絶妙な空気感の可笑しさ。バカリズムの傑作脚本と優れたキャスト・スタッフが一つとなった成果である。

奨励賞

ドラマ10 燕は戻ってこない

NHKエンタープライズ、NHK

概要

派遣社員として暮らすリキ（石橋静河）は悩んでいる。職場の同僚から「卵子提供」をして金を稼ごうと誘われたのだ。アメリカの生殖医療エージェント「プランテ」日本支社で面談を受けるリキ。そこで持ち掛けられたのは「卵子提供」ではなく「代理出産」だった。元バレエダンサーの草桶基（稲垣吾郎）とその妻、悠子（内田有紀）が、高額の謝礼と引き換えに二人の子を産んでくれる「代理母」を探していた―。

選考理由

代理出産に潜む問題点を浮き彫りにしつつ、女性の貧困も描く社会派ドラマとして、観る者に多くを考えさせてくれた。桐野夏生の原作、長田育恵の脚本、Evan Callの音楽、石橋静河ら演技陣など優れた要素が結集した。

奨励賞

Netflixシリーズ 極悪女王

Netflix

概要

1980年代、日本に空前の大ブームを巻き起こした女子プロレス。そんな熱狂の中、カリスマ的人気を誇ったのがダンプ松本（ゆりやんレトリィバァ）だった。正統派プロレスラーとしての成功に憧れながらも、先にスターへと駆け上がったクラッシュ・ギャルズの長与千種（唐田えりか）、ライオネス飛鳥（剛力彩芽）らに後塵を拝する日々。彼女たちとの友情や戦い、家庭内の問題を経て、ダンプ松本はルール無用の悪役プロレスラーへの転身を決意する。代償や葛藤を抱え、“日本最恐ヒール”にまで成り上がった、ダンプ松本の知られざる物語。

選考理由

圧倒的な熱量と迫力。ダンプ松本の生い立ちを描くと同時に、俳優たちが人生の一部を捧げて1980年代の全日本女子プロレスの熱狂を今生き直した成果は驚嘆に値する。配信ならではの秀作である。

エンターテインメント部門

最優秀賞

題名のない音楽会～山田和樹が育む未来オーケストラの音楽会

テレビ朝日

概要

“世界一長寿のクラシック音楽番組”としてギネス認定を受けている「題名のない音楽会」が放送60周年を記念して制作したのが4回のシリーズ企画「山田和樹が育む未来オーケストラの音楽会」です。
世界的指揮者・山田和樹と共に18歳以下の子どもたちと「未来オーケストラ」を結成し、本番を迎えるまでの様子を描いています。
「誕生」回では、全国から応募してきた子どもたちの対面オーディション。合格発表で山田が意外な結論を出します。
「練習前編・後編」回では、初めて山田の指揮で合奏。フレーズを奏でるたびに山田は「メッセージ性がほしい」「キャンバスからはみ出せ！」「存在感を出せ」など次々と課題を与え、子どもたちが自ら答えを出すように仕向けます。戸惑いながらも子ども達はどんどん殻を破ります。
「本番」回では、コンサートホールでの本番。有名曲の大メドレー演奏は大成功！そして最後に山田が大切な言葉を贈ります。

選考理由

民放のレギュラー番組として、1964年の放送開始以来、クラシック音楽の魅力を伝え続けてきた。新しいことにチャレンジをし続けるその精神は、今回の60周年記念番組でも存分に発揮されている。18歳以下の一般の子供たちからなる「未来オーケストラ」を結成し、世界的指揮者・山田和樹が指導するという夢のような企画に挑んだ。山田の魔法のような言葉によって、子供たちがどんどん自分の殻を破っていく姿に魅了された。音楽の力とともに、子供たちの未来を感じさせる至福の時間だった。

優秀賞

バリバラ 最終回スペシャル

前編「イメージをぶち壊せ！マイノリティーと歩んだ15年」

後編「タブーに切り込め！マイノリティーが叫んだ15年」

NHK大阪放送局

概要

「生きづらさを抱えるすべてのマイノリティー」にとってのバリアをなくす、みんなのためのバリアフリー・バラエティー「バリバラ」。今年3月で、15年にわたる放送を終えることに。そこで2回シリーズで最終回スペシャルを放送。マイノリティーのイメージをぶち壊そうと当事者とともに生み出した爆笑必至の企画の数々や、障害者の性や部落問題など社会からタブーとされがちなテーマに切り込んできた、バリバラ15 年の歴史を振り返った。さらに、過去のバリバラ出演者の現在や、バリバラを見て生き方を変えた当事者を取材。この15年のマイノリティーをめぐる変化を伝えた。

選考理由

「バリバラ」がタブーに挑み、日本の障害者像を更新し続けた功績は大きい。マイノリティーの当事者が声を上げ、孤立せずにつながることの大切さを最後まで愉快に訴え続けた。番組は終了したが、その歴史的使命は決してまだ終わっていないと痛感する。

奨励賞

ヒューマングルメンタリー オモウマい店
能登のずっと明るい寿司親子 2024－2025

中京テレビ放送

概要

2022年８月に放送した石川・能登町にある寿司店「津久司」さん。店主 坂 津世史さん・息子 あおい君の明るく軽妙なやり取りが反響を呼びましたが、2024年元日に発生した能登半島地震では大きな被害を受け、お店は休業状態に。「必ず店を復活させる」と前向きな店主の原動力になっているのが、息子のあおい君。お父さんの料理が大好きなあおい君は、店主がにぎった塩むすびに「僕の日常はトット（お父さん）の料理を食べること」と大感激。迎えた2025年1月1日には、地震発生時刻に黙祷を捧げる2人の姿がありました。番組では、復興の今と広がるおもてなしの輪を「ずっと明るい寿司親子」の日常を通して伝えます。

選考理由

能登半島地震から立ち上がろうとする寿司店の親子の1年を追った力作である。「オモウマ」が磨いてきた密着取材のノウハウと、ユーモアに満ちた人物描写を通して、ニュースや報道では伝わらない被災地の日常の風景や思いを描くことに成功している。

奨励賞

国境デスロード　トランプの壁突破デスロード前編・後編

AbemaTV

概要

「人々は、なぜ国境を越えるのか？」
希望と絶望の入り混じる国境には、様々な人間ドラマが行き交っている。
命懸けで国境を越える旅路=デスロードに同行し
死線を超えた、その先に見る究極の景色を探す。
シリーズの最終話で取材したのは「世界一忙しい国境」と呼ばれるメキシコとアメリカの国境。
トランプのアメリカ大統領再就任で、最も影響を受けた国境でもある。
政治情勢によって明日の生活が左右され
ともすれば不法移民になってしまう人々が見つめる「デスロード」の先の風景に迫る。
番組はトランプ大統領の就任を跨ぐ2週に渡り配信を行った。

選考理由

トランプ米大統領の再選で移民問題が注目を集めたが、実際にメキシコからアメリカへ国境を越える人びとの素顔を伝える番組は珍しい。体当たりの取材で、移民たちの懐に入り込み、その希望と絶望の実態や、政治的・社会的背景に迫った意欲作である。

最優秀賞

CBCラジオ特集「20年目」

CBCラジオ

概要

誰もが無実の罪に問われる可能性があります。その時、法は、救ってくれるのでしょうか。
2003年の湖東記念病院事件で、患者の「人工呼吸器のチューブをはずした」などと自白し逮捕された西山美香さん。合理的な自然死の疑いがあるにもかかわらず、有罪判決を受け12年間服役しました。
99.9%不可能と言われる再審の扉をこじ開けたのは、元・裁判官の矜持と自戒を抱く弁護士、美香さんが獄中から両親に送った350余通の手紙から無実を感じ取り世に問うた地方新聞の記者たち、そして、娘の無実を信じる両親の悲痛な叫びでした。
西山さんが綴った手紙は、両親しか目にすることのないものだからこそ、その時その時の「美香さんの真実」を物語っています。
番組では、無実を訴えながら12年間の服役後に再審無罪が確定した西山さんの20年を振り返りながら、再審法に改正が求められる理由を紐解き、法は誰のためにあるのか、問いかけます。

選考理由

再審へ向け尽力した両親、弁護士、事件に光をあてたジャーナリストなどへの丁寧な取材とドラマチックな構成で、再審法の問題点を浮き彫りにした。獄中から両親へ送った手紙を西山美香さん本人が朗読しており、その声が冤罪の痛みを伴って、聴く者に迫る。ラジオならではの、声の力を感じさせる番組である。

優秀賞

放送100 年特集　ラジオと総動員帝国
～旧満州の放送音源が問いかける“教訓”～

NHK

概要

日本の傀儡国家・満州国でラジオ放送を担った満州電信電話株式会社。その新京放送局が収録した番組と取材素材の録音盤・約2200枚が、中国に残されている。この中には、日本からの放送を受信して記録したものも含まれている。私たちは、20年前、300枚をダビングし持ち帰った。そして、放送100年を機に、改めてこの音源を研究者とともに分析。ラジオがどのようにして人々を戦争へと駆り立てていったのか、明らかにしていった。すると、「放送の抱える構造的な課題」が今の時代にも繰り返し現れている実態が見えてきた。

選考理由

特攻隊員の出撃前の生の声が聴く者の胸を揺さぶる。令和の若者たちにも伝えたい貴重な音源だ。その音源から、今日のメディアの課題を引き出そうとする姿勢に、令和の制作者の強い意思を感じた。

奨励賞

文化放送開局記念 昭和100年スペシャル
「ドンとモーグリとライオンと ～やなせたかし 名作前夜」

文化放送

概要

「アンパンマン」の生みの親、やなせたかし。多彩なエンターテイナーとして知られているが、1960年頃はラジオ作家としても活動していた。それから半世紀以上の時が経ち、2024年春。当時の書き下ろしラジオドラマ台本が、文化放送の保管資料から発見された。そこには「やさしいライオン」「手のひらを太陽に」「アンパンマン」といった、後のやなせたかしの代表作に繋がるモチーフが数多く散りばめられていた。これらの貴重な資料を、やなせ本人や関係者のインタビューを交えながら紹介していく。名作が生まれる「前夜」の息遣いがラジオにあった。

選考理由

自局の膨大なアーカイブスから、貴重な音源や台本を探し出して構成した番組。詩人や作家として多才な活躍をしたやなせ氏の魅力を伝えるとともに、日々のラジオドラマの中で後のやなせ作品の源流が育まれたことが発見された。ラジオ番組制作者に勇気をもたらしてくれる番組である。

演技賞

伊藤沙莉

連続テレビ小説 虎に翼 (NHK)

選考理由

最優秀賞受賞作『虎に翼』のヒロイン猪爪寅子は、彼女にぴったりの役柄だったと言えるだろう。ぶれずに、困難が多くとも自分の信じる道をひたすら突き進む寅子を、懸命に実直に演じる姿が、実に魅力的であり、爽快だった。役作りのために明治大学で法律の講義を受けたと聞くが、法曹界と出会う寅子の歩みと重なるところも含めて、ドラマが描く社会の問題に向き合っていく真摯で前向きな姿勢が役作りに反映されたのだろう。子役時代から積み重ねてきた役者としての自信も役に反映されたのではないか。30歳にして、巡り合うべき役をつかみ、それを立派にものにしたのは快挙である。
多くの視聴者に勇気を与えてくれた。感謝している人は多いだろう。

演技賞

角田晃広

ホットスポット（日本テレビ放送網）

選考理由

『ホットスポット』の脚本担当のバカリズムとの相性のよさもあるのだろうが、普通のおじさんにしか見えない宇宙人という役を、これほど自然に演じ、かつ笑いを誘える人は稀有である。観客からどういうリアクションを引き出すべきかわかったうえで、狙ったとおり、何気ない自然な演技で、そのリアクションを引き出していく。通常の俳優の能力にプラスして、どう見せるか見えるかを計算しつくした知的な演技力を持っている。
すでに多くの映画やテレビに出演していて、その演技力には定評があるが、今回は特に表彰ものだった。通常に見えるが通常でないシチュエーションの可笑しみを表現する演技力に特に長けており、今後ますますの活躍が期待される。

脚本賞

バカリズム

ホットスポット（日本テレビ放送網）

選考理由

爆笑を招きつつ、綿密な伏線を見事に回収していく巧みな構成を持つ脚本で、その完成度の高さに舌を巻く。何気なさが笑いへと変わるユーモアの本質を示した傑作脚本である。

出演者賞

石丸幹二

題名のない音楽会～山田和樹が育む未来オーケストラの音楽会（テレビ朝日）

選考理由

『題名のない音楽会』の6代目司会者として、クラッシック音楽の魅力をわかりやすく伝える。60周年記念番組でも、平易かつ端的な解説で、番組と視聴者の橋渡し役として存在感を放った。

出演者賞

西山美香、井戸謙一

CBCラジオ特集「20年目」（CBCラジオ）

選考理由

無罪を勝ち取った後、勇気をもって出演し、自らの手紙を朗読した西山美香さんの声。彼女の無罪を信じて再審の扉をこじ開けた井戸弁護士の力強い言葉。
この作品の光となった。

調査報道賞

ひいらぎネット、Tansa

NHKスペシャル 調査報道・新世紀 File3 子どもを狙う盗撮・児童ポルノの闇（前編・後編）（NHK)

選考理由

ひいらぎネットが丹念にネット上をパトロールして被害を探し、Tansaが緻密な取材でアプリのプラットフォームを特定する。このふたつの民間の調査機関がなければ、この作品は成立しなかった。その成果に対して。

手塚孝典（信越放送）

25年にわたる満蒙開拓の証言記録とドキュメンタリー番組の制作

業績内容・選考理由

戦争の影に埋もれた満蒙開拓の歴史に25年にわたり向き合い、日本のみならず中国を含む体験者の証言や長野県内に残る史料を丹念に掘り起こし、加害と被害が複雑に絡み合う“棄民政策”の実相を描いてきた。沈黙を強いられた人々の声に真摯に耳を傾け、戦前から戦後へと連なる歴史の澱みに迫る。作品は教育や地域学習の場でも活用され、不都合な史実と真摯に向き合いながら、地域から全国へ問題提起を続ける報道姿勢を地域放送局において率先して示してきた。

吉崎 健（NHK福岡放送局）

長年にわたる「水俣病」など地域に根差したドキュメンタリー番組の制作

業績内容・選考理由

1989年の入局以来、主に九州を拠点にディレクターとして活動してきた。水俣病や長崎の原爆、諫早湾干拓問題など、一貫して地域の視点から社会課題の本質に迫り、語られざる声に向き合いながら、地方発のテレビジャーナリズムを発信し続けている。特に水俣病の取材においては、胎児性患者との信頼関係を長年かけて築き、当事者の思いや日常に寄り添いながら、その姿を丹念に描いた番組などを手がけてきた。現在も取材を継続し、地域が抱える課題を社会に問いかけている。

長崎放送

永年にわたる被爆者証言の記録と放送、及び核軍縮に向けての報道

業績内容・選考理由

被爆の実相を伝え、核兵器廃絶を訴える報道に、1952年の開局以来、一貫して取り組んできた。1968年に記者・伊藤明彦氏が立ち上げたラジオ番組『被爆を語る』は、後継番組『長崎は証言する』とともに、1,000人を超える被爆者の証言を蓄積・放送してきた。伊藤氏の「歴史への責任」という言葉は、今も取材現場の姿勢を象徴している。現在も「被爆体験者」問題や未整理資料の掘り起こしを通じて、新たな視点から取材を重ね、地域に根ざした報道を通じて戦争の記憶を社会に問い続けている。

NHK「性暴力」プロジェクト

継続して性暴力被害者の実態を伝え社会の理解を促進

業績内容・選考理由

2019年にNHKのサイト「性暴力を考える」を開設し、性暴力被害者の声を丁寧に記録し、社会に広く伝えてきた。被害者や視聴者が互いに繋がり支え合うネット上のコミュニティを形成しながら、活動を継続的に展開することで、社会の意識変革を促す新たな報道のかたちを模索している。膨大な証言とデータに基づく発信は、司法や政策の場でも引用され、2023年の刑法改正にも寄与。さらに、児童への性的搾取や生成AIによる児童ポルノ問題にも積極的に取り組み、社会課題の解決に貢献している。

日本テレビコンテンツ開発チーム

3Dスキャンワークフローの簡易化とその活用

（日本テレビ放送網）

業績内容・選考理由

従来の3Dスキャン技術では専用機材と放送用品質にするための事後処理が数週間かかるという課題があった。今回スマホなどで撮影した10分ほどの素材映像から高品質な3D映像を数時間で生成する技術を開発、パリ五輪中継などで活用し好評を得ている。さらに能登半島地震直後の被災状況を3D画像でアーカイブし、誰もがwebビューアで視聴できるようにしたことは、防災・減災にも貢献しており、高く評価できる。

Live Multi Studio開発チーム

映像伝送ソフトウェア「Live Multi Studio」の開発

（TBSテレビ、WOWOW）

業績内容・選考理由

インターネット回線を介して離れた場所にあるカメラ等を操作しようとすると制御信号に遅延が生じるため極めて困難であった。今回この課題を解決する独自の伝送方式を開発、ゴルフ、テニス等の海外生中継番組で現地カメラ、スイッチャー等の国内からのリモート操作を可能とし、効率的な中継を実現した。『世界陸上オレゴン』、テニスの国際大会『男子テニス国別対抗戦デビスカップ』中継等で使用し、好評を得ていることは、高く評価できる。

VMO 開発チーム

VMO（バーチャルマスターオペレーター）の開発

（テレビ北海道）

業績内容・選考理由

放送局の主調整（マスター）業務を安全かつ円滑にリモート化するシステムを開発、通常時における監視業務の効率化と災害時や障害発生時における体制の強化を可能とした。さらに他放送局の統合監視も可能となり、すでにFM北海道の夜間監視業務を受託している。放送だけでなくビル管理や工事現場での応用も検討されており、高く評価できる。
AI導入による一層の業務改善の検討にも取り組んでおり、更なる効果を期待したい。

H3ロケット打上げ撮影システム開発チーム

H3ロケット打上げ用超高精細撮影システムの開発

(NHK、JAXA、M-Tec JAPAN)

業績内容・選考理由

国産大型ロケットH3の打ち上げに際し、従来は３km以上離れた場所からの撮影になっていたが、今回のマルチカメラシステムの開発により、約90mの至近距離から迫力のある超高精細度の映像の撮影を可能とした。この映像は、NHKスペシャル、BS8KTV特番、新プロジェクトXなどに使用され好評を得ているほか、打上げ時のロケットやエンジンの挙動の確認にも役立っており、高く評価できる。

特別賞

メディア環境が大きく変化するなか、放送の未来を切り拓いたり、新たなメディア文化創出にチャレンジする取り組みを表彰し、その可能性を積極的に応援する賞

天城靱彦とTokyo Docs

国際イベントを通してドキュメンタリーの海外展開を牽引

業績内容・選考理由

2011年の立ち上げ以来15年、Tokyo Docsはドキュメンタリー番組の国際共同制作・海外展開を実現する国際イベントとして着実に定着し、最近ではアカデミー賞ノミネートにつながる作品も出るなど、優れた成果を上げている。ドキュメンタリー番組の海外展開への道筋を切り拓いた天城氏の功績を讃えるとともに、Tokyo Docsが世界に通用する映像コンテンツ制作、人材育成で一層の役割を果たすことを期待する。